



目次 CONTENTS

特集

1・2 **住み慣れた場所で安心して暮らす**

3 **にいがたCITY NOW**

- にいがた 冬 食の陣
- 火の用心で安心なまちへ

- 4
- 12月議会定例会閉会
 - 働きやすい職場づくり推進フォーラム
 - ともにアートプロジェクト 展覧会
 - にいがた2km バーチャルウォーク
 - 八区魅力発見⑩ ~西蒲区編~

5 **連載 もっと知りたい! G7 ニイガタで始める。**

雪に備えよう

他3ページは区役所日より「情報ひろば」は別冊で発行しています

住み慣れた場所で安心して暮らす

医療や介護が必要になったとき、住み慣れた自宅で暮らし続けるための選択肢があります。

今号では「在宅療養」や、それを支える訪問看護師について紹介します。

問 地域医療推進課 (☎025-212-8018)



山の下クリニック(東区) 院長 阿部 行宏さん

訪問診療で在宅療養を支える医師に話を聞きました。

入院だけではない療養場所

療養が必要になったときは、入院のほか、自宅や施設で療養する選択肢があります。治療や処置などの内容によっては入院が必要な場合もありますが、超高齢社会の進展や現在のコロナ禍で、自宅での療養を希望する人が増えています。

入院生活では食事や消灯などの時間が決められており、病気を治すことに主眼が置かれ、一方、在宅療養は、住み慣れた家で家族やペットと共に、自分自身の生活を大切にしながら現在の状態を維持することが主な目的となります。

自宅で療養を始めたら笑顔が増えた、最期を迎えるために家に帰ってきたら元気になったという例も珍しくありません。

在宅療養を支えるために

在宅療養では、医療面で医師や訪問看護師、生活面でホームヘルパーなど、さまざまな専門職の人が関わります。特に、訪問看護師は医療従事者として日常的に患者と接するため、在宅療養をする上で、なくてはならない存在です。

在宅療養で大切にするのは、「本人がどのような療養を望むか」ということです。医療・生活それぞれの視点から、患者さん一人一人の希望に合わせた支援体制が作られます。

いつでもいそぎのために

誰しも、いつ病気などで療養が必要になるか分かりません。自分はどこで療養をしたいのか、どのように過ごしたいのか、どのような医療や処置を受けたのかなどを事前に考えておくことが大切です。また、それを家族と共有しておくことで、実際に療養が必要になったときにスムーズに療養を始めることができます。自分の病歴や生活背景などを理解しているかかりつけ医をつくっておくことも大切です。

療養にはさまざまな選択肢があることを知ってもらいたいです。そして、自分に合った療養で、人生の大切な時間を過ごしてほしいと思います。

在宅療養のモデル例



にいがた ニキロ
みなとまち新潟
新潟都市のまちづくり

市の各種手続き、催し案内などは
土・日曜、祝日も
新潟市役所コールセンター

年中無休8:00~21:00
にいがたし 市民の し や く し ゃ
こたえてコール 025-243-4894
FAX 025-244-4894 Eメール 4894call@call.city.niigata.jp

新潟市の人口・世帯数 (12月末住民基本台帳人口。かっこ内は前月との比較) 人口/773,914人(-466)
男 372,592人(-230) 女 401,322人(-236) 世帯数/347,609(-85)

新潟県新型コロナ受診・相談センター
☎025-385-7634
(24時間対応。土・日曜、祝日も受け付け)